

# 132 昭和時代 55年体制

第五次内閣まで続いた吉田茂長期政権ですが、造船  
疑獄事件などもあり、退陣に追い込まれました

## < 鳩山一郎 内閣 > (日本民主党)

マッカーサーに公職追放されて失った日本自由  
党総裁の椅子は、GHQがいなくなった後も吉  
田茂に返してもらえませんでした。



吉田茂 (日本自由党)



鳩山一郎 (日本民主党)

再軍備を避けて経済復興に全集中  
の軽武装路線を進む。GHQや米  
国の再軍備要求も憲法9条を理由  
に拒否し続けた。一方でMSA協  
定など米国から援助を引出した。

米国の言いなりにならない自主  
外交を主張。米国の反対を押し  
切って日ソ共同宣言に調印。米  
国の言いなりにならないために  
再軍備(9条改正)必要と主張。

## 1955 左右社会党再統一

1951年のサンフランシスコ講和会議の際に、単独講和  
か全面講和かで左右分裂していました。

→改憲阻止に必要な三分の一議席確保

## 1955 保守合同 (自由党と民主党)

→ **自由民主党** 成立。

党是は憲法改正。  
内閣に **憲法調査会** を設置

## 1955 **55年体制** が38年間続く。

高度経済成長が続き、貧富の格差縮小。  
日本国民…社会主義には賛成しない。特に農家。  
→社会党に政権は与えない。  
日本国民…憲法9条改正は賛成しない。  
→自民党に三分の二は与えない。  
この絶妙な日本国民の政治選択が、55年体制です。

## < 鳩山一郎 内閣 > (自民党)

独裁者スターリン死去、米国大統領もトルーマンか  
らアイゼンハワーに交代。指導者一新で雪解け。

## 世界の多極化(米ソの覇権に揺らぎ)

## 1955 中ソ対立 表面化

## 1955 **第1回 アジア・アフリカ会議**

インドネシアの **バンドン** で開催

→米ソに加えて第三世界の台頭誇示。

## 1956 **日ソ共同宣言** (国交回復)

①平和条約締結後に歯舞・色丹島の返還

②日本の国連加盟に反対しないと約束

## 1956 **国際連合加盟**

## < **石橋湛山 内閣** > (自民党)

小日本主義の『東洋経済新報』記者。

病気のため2か月で退陣。



## < **岸信介 内閣** > (自民党)

「日米新時代」… 日米対等な時代

1951日米安保条約の片務的内容

・日本は基地を提供する義務がある

・米国は日本防衛に **寄与** することができる



## 1960 **日米相互協力及び安全保障条約**

①米国の日本防衛を義務とする。

②どちらかが攻撃を受けた場合、日米は  
共同して軍事行動に出ることを定める

→「米国がやっている戦争に巻き込まれる恐れがある！」  
「げんに米国はベトナム戦争をやっているじゃないか」  
「心にふたをしていた戦争の記憶・感情が呼び起こされた…」  
岸信介…開戦した東条内閣の商工大臣。警職法(断念)

## 1960 **60年安保闘争**

・岸内閣、衆議院で **強行採決**。

・国会を学生、反対派が取り囲む。

・参議院では落ちついて審議できず。

・国民が真っ二つに分かれて対立。



1960年6月 国会を取り囲むデモ隊の行進 (「朝日新聞」)

・ **アイゼンハワー** 大統領訪日中止。

・参議院で採決できないまま、

新条約は **自然承認** された。

→見届けて岸内閣総辞職。条約は自然

承認されたが、国民の間に分断が残った。